

刻む会 たより

No.59

2015. 12. 3

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

共同代表

井上洋子・内岡貞雄・木村道江

事務局

宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内) TEL0836(21)8003

カンパ振込先

ゆうちょ銀行 口座番号 015900732405

名義 長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

年会費

正会員3,000円 賛助会員1,000円

ホームページ

<http://www.chouseitankou.com>

メール

chouseitankou@me.com

長生炭鉱坑口調査

―遺骨が眠る「海底坑道調査」へ繋げたい―

共同代表 内岡貞雄

◇はじめに

本年10月下旬に「長生炭鉱坑口調査」が行われた。場所は、「追悼ひろば」から海岸道路を西に500m程行ったピーヤ(排気・排水筒)の正面付近、そこから山側に少し入り込んだ雑木林である。追悼碑完成後、「刻む会」では遺骨収集の取り組みを進めている。遺骨収集は大雑把に言えば、三つの方法が考えられる。一つはオーソドックスに「坑口」から海底坑道の調査を進める、二つ目は「岸に近いピーヤ内」から調査を行う、三つ目は坑口から約1,010mの「水没事故現場」でボーリング調査(直径7.5〜10センチ)を行いそこから海底坑道を調査することである。

今年の73周年犠牲者追悼式で講演していただいた塩川正隆さん(NPO法人「戦没者を慰霊し平和を守る会」理事長 以下、「守る会」)の助言を得て運営委員会で検討した結

果、熊本市の九州日商興業(株)に「坑口調査」を依頼することとした。

◇「坑口予備調査」&「坑口調査」

八月二十二日、暑さのきびしいなか、熊本から社長の北里さんと同社の地下空洞調査技術士の日高さんが来宇し予備調査を行った。長生炭鉱現地の「炭鉱(やま)の神」の祠跡から海側に20m程の雑木林の中に、ややこんもりとした場所があり周辺が馬蹄形にくぼんでいる。事故時に「坑口」を塞いでから73年、海岸道路工事で「坑口」を埋めてから10余年が経過している。北里さんの話では、「坑口」を長く塞いでいると、周辺部に少し凹んだ状態ができるという。事故当日(1942年2月3日)を想像してみた。「坑口」を百人以上の人たちが取り囲んだこと、「坑口」南側は広い坑木置場であったこと、朝鮮人女性が働いた選炭場まで十数mの場所だったこと等から、ここが「坑口」として有力な場所ではないかと思われる。



3日目、長生海岸での「坑口調査」

10月21日、22日、23日にかけて同会社の北里さんから3名で「坑口調査」が行われた。5日前に「刻む会」のメンバーが指定された場所の草刈りを行っていたので、スムーズに作業に入れた。「坑口調査」は比抵抗法水平電気探査という方法で実施された。

一日目、海岸道路から10m入った土砂盛りの場所に50mの長さの電線をあてがい、地面に流した電流の抵抗値を解析する。それにより、「坑口」から続く斜坑(ここは地下5m前

後)の位置を探る。データーを読む人、入力する人、点検を行う人が一丸となり調査を進めていた。

二日目、海岸道路下の側溝すぐ横の場所で、昨日同様の作業が行われた。この地点の斜坑は地下10m程と思われる。作業は慎重さと根気の要る仕事だ。

三日目の最終日は、海岸に降りて調査を行う。海岸道路の堤防から10m程海側の所での作業である。この場所(斜坑)は地下十数m、斜坑道の中間あたりになると思われる。

三日間、天候に恵まれた「坑口調査」であった。12月上旬の「刻む会」たよりのNo.59発行頃には、調査結果が判明していることだろう。期待して待ちたい。

なお、右下写真資料の「厚生労働省により発見された防空壕」は、沖縄南部で厚生労働省が道路から20m入った場所で、幅5m、深さ5m、奥行30mの防空壕を発見した時のものである。データーは「平和を守る会」と熊本九州日商興業(株)の合同チームが行った電気探査によっており、技術力の高さは厚生労働省にも認められているのである。(資料「平和を守る会」発行「平和の灯」第七号、2005年2月29日)

◇「坑口」に関する証言等

「刻む会」故山口武信さんや現顧問の島徹史さんは「坑口」を見たそうであるが、「坑口」の写真が見当たらないのは残念である。また地元住民は海岸道路ができる前、海岸近くに「坑口」があったのを覚えているという。古

くから郷土の写真を撮り続けている神奈川在住のSさん撮影(1980年4月)の長生炭鉱全貌の写真には、「坑口」と思いき建造物がチラッと見える。いずれにしても多くの人々が「坑口」を実際に見ているのである。



厚生労働省により発見された防空壕(2005.2.21)

事故当日、長生炭鉱の「坑口」では生死の分かれ目の状況が見られた。「奇跡の生還」といわれる李鍾天(イ・ジョンチョン)さんは、2km沖合の切羽から生還した。電気保安係の原田里美さんは、出水を食い止めるため、急遽、奥の切羽から秋順得(チュ・スンドク)さんと呼ばれた。もし、呼ばれなければ秋さんは海水に飲まれ犠牲者になったと思われる。

他方、兄さんが坑内に入っていることを知り、非番だった弟の権道文(クワン・ドムン)さんは、坑内に入り込み帰らぬ人となった。坑内管理の責任者だった江本軍治さんは、原田里美さんとすれ違う時に、坑口へ引き返しおけば助かったのである。このように「坑口」は坑夫たちの日常の出入り口だったのみ

ならず、事故犠牲者たちのご遺骨に最も近い場所なのだ。

◇終わりに

「坑口調査」を三日間見守った。改めて事故現場のこと、遺族のことを考えさせられた。和歌山の遺族の権栄吉さんが(権道文さんの息子)、言われていた。「遺骨は『坑口』から引き揚げてください。それが一番の近道です」。熊本の本里さんから近々、坑口に関する説明を受ける。「坑口」の発見が、「海底坑道調査」へ繋がっていくよう努力と知恵を結集したい。今後とも、皆様のご支援を心からお願い致します。

活動日誌

(前回はより以降)

※太字：詳細は記事にて紹介

2015年

- ▽10月12日(月) 無窮花堂秋季追悼式参加
- ▽10月21~23日 坑口調査
- ▽10月27日(火) 福岡県京築地区社会人権・同和教育担当者協議会 フィールドワーク
- ▽10月30日(金) 『刻む会たよりのNo.58』発送作業
- ▽11月14日(土) 山口朝鮮初中級学校公開授業
- ・市民交流会
- ▽11月16日(月) 第6回運営委員会
- ▽11月22日(日) 見なおし世なおしフォーラム
- ▽11月23日(月) ニッコリしようパレード

“長生炭鉱の現場を歩き、机上では得られない体験が出来た”

【はじめに】

今年の10月27日(火)、福岡県の上毛・豊前・みやこ・築上・行橋・苅田方面から15名の方々が長生炭鉱フィールドワークに来られました。早朝に出発し、辺りがすっかり暗くなってから帰着するハードなスケジュールにもかかわらず、皆さん、とても熱心に取り組みました。現地は小雨模様でしたが、「現場を歩いてその空気を吸って水没事故の実感が込み上げてきました」という感想をお聞きました。世話人の方が、地区ごとにフィールドワークアンケートを取ってくださいましたのでご紹介します。



宇部興産の史跡・巻き上げ機を見学

☆京築A地区

- ① 歴史の間の部分を目の当たりにして、言葉になりませんでした。人間とは、恐ろしい存在だと感じた上で、同じ過ちを繰り返してはいけなと思います。
- ② 坑口の入り口が無事に見つかりますように祈っています。なんとか地上に・・・と思っています。

☆京築B地区

- ① ピーヤ(排気・排水筒)は何気なく眺めていると、ただのコンクリート製の筒であるが、話を聞くことで、裏にある悲惨な歴史があることを初めて知った。
- ② 遺構と解説があつての歴史遺産。どちらが欠けても、事実の継承が困難になる。

☆京築C地区

- ① 強制連行、炭鉱での労働、事故の起こった現場に立てて、机上では感じる事の出来ない体験ができた。
- ② 過去に起こった事実を後生に残す、語り継ぐ、まさに「きざむ」ことが肝要だと感じた。



緑橋教会にて『アボジは海の底』DVD鑑賞の後、井上共同代表より当時の様子を学習。皆さん、真剣なまなざし。

☆京築D地区

- ① 資料で学習した後にはフィールドワークしたことは大変貴重な時間でした。仕事でも今日の研修は生かれますし、私自身の人生においても勉強になる一日でした。誠に感謝申し上げます。
- ② 「刻む会」の皆様の熱意にふれることが出来、大変良かったです。犠牲者の方々の遺骨が一日も早く、回収できることを切に願っています。

【終わりに】

帰路、バスの中で話された皆さんの感想は、どれも胸を打ちました。特に、親族の方が沖縄戦でお亡くなりになったという話は印象的でした。私(内岡)も今年6月に沖縄に出かけた時、知人から「遺骨箱の中は石ころだった」、「地上戦は日本軍と住民を巻き込み、言葉で表せないくらい悲惨な状況だった」という話を聞き、『非戦・平和』の思いを強くしました。(文責 内岡)



ピーヤの見える西岐波海岸にて。小雨の中、追悼ひろばをはじめ、跡地を歩きました。

子どもたちの笑顔はじけた！

— 午後の市民交流会最高！（チューーゴ！） — 共同代表 内岡貞雄

【はじめに】

2010年度から始まった高校無償化は朝鮮高校だけに適用されず、これに追隨し2013年度から山口県、さらに翌年度は下関市と宇部市が山口朝鮮初中級学校（以下、山口朝鮮学校）への補助金を一方的に停止しました。これは、明らかに「教育の差別であり、人種差別撤廃条約（国際法）に違反する」が、何より朝鮮学校に通う子どもたちの心を傷つけているのです。私たちは無償化法適用&補助金復活の闘いを山口朝鮮学校関係者の皆さんと連帯して粘り強く続けていきます。

本年七月に「朝鮮学校を支援する山口県ネットワーク」（以下、支援する山口ネットワーク）が立ち上がりました。そうだった経緯もあり、今回（11月14日）の山口朝鮮学校の公開授業・保育、午後からの市民交流会は大変な盛り上がりを見せました。以下報告します。

【英語授業（英語『マイドリーム』を参観して）】

「私はラグビーをしたい」、「私はサッカーをしたい」、「私はミュージシャンになりたい」等々、「マイドリーム」を教材にした英語授

業（中2）を見ました。子どもたちは、リスニング（聞き取り）・スピーキング（話す）・ライティング（書く）そして大型TV型の画面の絵をみながらとても楽しそうでした。先生と子どもたちの対話も途切れることはありませんでした。時おり有名なミュージシャンの名前が出ると、「ウアー」という歓声が起こりますが、団塊世代の私には、何のことか分かりませんでした。（歳ですなぁ）生徒たちは多様な英語学習を通して、確実に「英語の学力」をつけていると思いました。

ある調査によると、保護者が子どもを朝鮮学校に通わせる理由は「学力と人間性の両面」にわたる質の高い教育、そして言葉使いや挨拶がきちんとできる『躰』にあるといえます。勿論、民族教育は当然のことです。（中島智子「朝鮮学校保護者の学校選択理由」プール学院大学研究紀要2011年）

授業での「ホットな雰囲気」は、五九年間の山口朝鮮学校の「民族教育」の実績に裏づけられた



中2の英語の授業（マイドリーム）

ものだと思いましたが、バイリンガルの授業は、将来、子どもたちが日本と朝鮮半島をはじめ、グローバルな世界で活躍する姿を想像できました。

【長生成鉱の学習発表

おぼろしい！（フルリユンハダー）

今年九月二六日（土）、中級部の生徒たちが長生成鉱フィールドワークに参加し、その学習成果を大型TVを使って発表しました。よく整理されたすばらしい内容です。

- ① 水没事故犠牲者 一八三名のうち、朝鮮人犠牲者が一三六名だったこと。私たちは西光寺で位牌を並べながら、その人数の多さを実感しました。
- ② 「長生成鉱追悼ひろば」の追悼碑（朝鮮語）を読みながら、犠牲になった方々やご遺族の悲しみを肌で感ずることができました。
- ③ 西光寺で許鳳兆（ホ・ボンジョ）先生から山口県の朝鮮学校について教えていただきました。また「刻む会」の共同代表の井上洋子さんからは、「死者への手紙」で犠牲者のご遺族を探しだしていったことなどをお聞きしました。「刻む会」の皆さんは大変な苦勞を重ねて、「歴史の事実」を積み上げてきたことがわかりました。
- ④ ピーヤの見える海岸で、自作の追悼文を読み、それからみんなで献花をしました。穏やかな海の底に放置されたままになっている犠牲者のご遺骨が早く引き揚げられるように願いまし



中級部生徒による長生成鉱の学習発表

た。
役割分担が見事で、とても上手に発表してもらいました。中級部のみなさん、アジユ・カムサハムニダ。(大変ありがとうございました)。

【体育館での可愛い発表会】

園児のとても可愛い合唱に会場は和やかな空気に包まれました。園児たちは、初中級部と進むにつれ、きっと「山口朝鮮学校に誇りを持って」と確信しました。初中級部の子どもたち全員の合唱も心に響きました。また、中級部の司会者の堂々とした進行には感心させられました。



園児の可愛い発表会 (体育館)

その後、呉栄哲(才)

ヨンチョル) 学校長から朝鮮学校の学校紹介がありました。朝鮮学校は全国に65校あり、いずれも「地域に開かれた民族教育を行っている」とのことです。また教育内容についても日本の学校と遜色ない「質の高い教育を行っている」と自信に満ちたお話でした。来年2016年は、学校創立60周年の節目を迎えるとのことでしたが、その時は私たちの「支援する山口ネットワーク」の出番もあるかもしれません。

朝鮮高校といえば、サッカー、ラグビーの強豪校として全国的に有名です。今年はずでに東京朝鮮高校ラグビー部が全国大会初出場を決めました。これに続いて大阪朝鮮高校ラグビー部が出場

すればダブル出場が実現し、『ウリ・ハッキョ』にとって大変誇らしい快挙となります。この言葉に、会場から拍手が鳴り響き、参加者全員で祝福の気持ちを表しました。(後日、大阪朝鮮高校ラグビー部は決勝戦で大阪桐蔭高校に惜敗しました)

【アンニョンハセヨ！ 市民交流会】

グラウンドに焼肉用七輪がずらり30個ほど並び、たっぷりのお肉、あふれる野菜等々、「アボジ会・オモニ会」の皆さんが時間をかけて準備してくださいました。「焼肉のタレを物販してください」という声が出るほど美味しいタレでした。

開会の挨拶に続

く乾杯の音頭で市民交流会がスタート。あちらこちらの席から「アンニョンハセヨ」の言葉が聞こえてきます。その後、リレートークが始まりました。市民団体(憲法を活かす市民の会、アジア共同行動、「刻む会」等)の方々、高校生、関西の大学教員、勿論「アボジ会」・「オモニ会」からも感想を述べていただきました。皆さんの「エネルギーを結集」して、山口朝鮮学校を支援してゆきたいと思えます。いつしか、歌と踊りの輪が広が



オモニ会の皆さんによる「糸」の合唱

りました。とりわけ、「山口朝鮮学校オモニ会」の皆さんが歌ってくださった「糸」(中島みゆき作詞・作曲)はすばらしいものでした。



縦の糸はあなた 横の糸は私
織りなす布はいつか誰かを
暖めうるかもしれない

市民交流会の盛り上がりは、山口朝鮮学校を支えるためにみんなでしっかり回結することを確認できた場になりました。

【終わりに】

今回の授業公開、市民交流会に参加された方々のどの顔もにこやかでした。ひとり一人の立ち位置から、自らが山口朝鮮学校の支援へ積極的に関わっていかうとされているからと思います。私たちは「すべての人が対等に共に歩む」ことを合言葉にして進んでゆきたいものだと思います。

数年前、朝鮮学校へ子どもを通学させている保護者の方から聞いた言葉で、報告を締めくくりたいと思います。

「自分が何者であるのかという自己アイデンティティを、一番の近道ですんなりと教えてくれるのはウリハッキョ(朝鮮学校)しかありませんよ。」





会計報告 (2015年10月22日~2015年11月26日)

(円)

【一般会計】

	科目	年度予算	期間実績	実績累計	達成率	備考
歳入						
1	会費	350,000	28,000	285,000	81.4%	※1
2	寄付金	1,200,000	68,000	511,592	42.6%	※2
3	物販	120,000	3,000	20,600	17.2%	
	証言・資料集	70,000	3,000	20,600	29.4%	
	その他	50,000	0	0	0.0%	
4	雑収入	5,000	3,740	5,740	114.8%	電柱設置料
5	前期繰越金	460,199		460,199	100.0%	
6	特別会計より繰入	0	0	0		
	合計	2,135,199	102,740	1,283,131	60.1%	
歳出						
1	事務費	50,000	1,509	34,982	70.0%	
2	広報費	250,000	52,891	164,267	65.7%	たより送料他
3	会議費	20,000		20,000	100.0%	
4	追悼碑管理費	10,000	347	2,812	28.1%	電気代
5	活動費	790,000	48,968	125,667	15.9%	
	学習会等	90,000		18,667	20.7%	
	追悼集会	500,000		6,156	1.2%	
	その他活動	200,000	48,968	100,844	50.4%	雑支出付替、政府交渉準備、 坑口調査他
6	他団体会費等	40,000	3,000	18,000	45.0%	
7	雑支出	20,000	11,590	20,532	102.7%	賛同金付替、テントシート他
8	予備費	50,000			0.0%	
	小計	1,230,000	118,305	386,260	31.4%	
9	特別会計へ繰出	905,199	0	0	0.0%	
10	繰越金	0	-15,565	896,871		
	合計	2,135,199	102,740	1,283,131	60.1%	

※1 新規正会員登録1名(個人1名・団体0名) / 累計79名(個人72名・団体7名)
 新規賛助会員登録6名(個人6名・団体0名) / 累計176名(個人171名・団体5名)

※2 寄付者(敬称略)

安蘇 龍生 猪股健太郎 遠藤 巖 呉 世 憲 杵渕 智子 香渡 清則
 坂 貞子 島村真知子 田中 豊 中里 仁一 福川 寿子 矢儀 保子
 福岡県教育庁京築教育事務所 人権・同和教育室 (その他匿名3名)

【追悼碑特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
前年度繰越金	2,013,756				
繰入金	0		繰越金	2,013,756	
合計	2,013,756		合計	2,013,756	

【遺骨収集等特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
前年度繰越金	2,000,000				
繰入金	0		繰越金	2,000,000	
合計	2,000,000		合計	2,000,000	

以上感謝をもってご報告いたします。
 引き続きのご支援をお願い申し上げます。



事務局長 小畑太作

【委員会開催】

- ① 2015年度 第6回運営委員会
11月16日(月) 欠席4名

【学習会・フィールドワーク受け入れ】

- ① 福岡県京築教育事務所 10月27日(火)

【遺骨等収集】

- ① 坑口探索について、10月21日(水)～23日(金)に本調査を実施。約一ヶ月の解析を経て12月4日(金)に調査業社による報告会を実施予定。
- ② 政府交渉のために、岩国在住の元国会議員と面談。同議員により政権与党議員との連絡経路を構築。今後、正式な政府への要請行動を計画中。
- ③ 今後のDNA鑑定実施に向けて、犠牲者と遺族のデータベースを作成中。現時点で、採取した検体についての情報を管理すると共に、今後の調査計画の策定を検討予定。

【74周年追悼集会】

内容について検討。詳細は別途案内にて。

【宇部市長との協議】

この間、協議会は開催されず。

しかし、2005年に、国政府からの「朝鮮半島出身の旧民間徴用者に関する遺骨調査」に対して、宇部市役所が、情報「無」と回答していたことが入手した文書により判明。調査依頼書には、長生成鉱をはじめ市内6箇所の該当事業所が記載されていますが、いずれについても宇部市役所

は遺骨の情報を持っていないと回答したわけでは。しかしながら当然、少なくとも、長生成鉱に関しては特定の場所に遺骨が埋没したままであることや、その名簿も存在していることを宇部市役所は知っているわけです。この齟齬について宇部市役所は、調査該当範囲は遺骨が保管されている場合だったからだと言いつつしています。しかしその様な回答の制限は、調査依頼書にはなんら記されていないのです。

当時の調査が、何を調査しようとしたものなのか、その実施目的に照らして、今後、国政府をはじめ、山口県庁、宇部市役所に問いただしていく所存です。

ピーヤの保存については、文化財あるいは史跡の指定について、市教委にも検討を依頼しているところですが、当会としても検討を始めました。

宇部市石炭記念館の作り直された年表における長生成鉱の犠牲者を「殉職者」と表現した問題について、既に抗議 修正を要請しているピーヤ説明板の歴史歪曲と同質であり、こちらにも抗議・修正の要請書を提出しましたが、回答期限を越えて催促をしましたが、未だ回答がありません。第9回長生成鉱水没事故問題解決協議会は2016年1月7日(木)10時からです。皆様のご参加をお待ちしております。

【追悼ひろば「の拡充」】

「追悼ひろば」の説明文と犠牲者の本名と創氏名の対照表を検討の上確定。ハンブル版も作成することとなり、神谷丹路さんに翻訳していただきました。感謝します。

【関係資料収集】

紙媒体の資料はPDF化しWeb上で共有、VHSテープはDVDにダビングすることにし中古ダビングデッキを購入。但しいずれも作業には未着手。人手が足りません。

【山口朝鮮初中級学校への助成金停止問題】

11月14日(土)開催の公開授業と市民交流集会の案内ならびに参加。今後の取り組み方を検討。

【韓国「対日抗争期強制動員被害調査及国外強制動員犠牲者等支援委員会」による報告書】

標記の日本語版について、韓国委員会と交渉の結果、年内に発刊見込となりました。しかしながら、未翻訳の部分が多数あることが判明。在日の金炳辰さんの多大のご協力により現在翻訳進行中です。心より感謝します。これにより当初予定していた『証言・資料集』第三集としての発刊はなくなりました。

【その他】

- ① 『刻む会だより』 No.58 発行。 No.59 の企画。
- ② 見なおし世なおしフォーラムに委員を派遣。11月22日(日)
- ③ ニッコリしようパレード in 下関 11月23日(月)に参加ならびに出店。
- ④ 韓国仏教宗団協議会の追悼集会受入調整連絡。



「第二回ニッコリしようパレード下関」雑感 運委委員 横山 潤



今年も11月23日、「リトルプサンフェスタ」の日に開催されました。昨年、周南市在住の、若くてしぶい李相仁（リ・サニン）さんの呼びかけで、実行委員会を組織し行われた、初めての試み。「日本とコリア」を象徴する、「ニッコリしよう！仲良くしよう！」とヘイトスピーチに抗う呼びかけをしながら、プラカードを掲げてのパレード。今年も引き続き、「刻む会」が準備段階から話し合いに加わって（ファミレスでの会議もありました）、第2回目を迎えました。

竹崎公園（三角公園）にテントを設営し、グッズや資料売り場、飲料コーナーを配置して、午後一時から受付開始。「差別止めよう・仲良くしよう」と記された配布資料に、関釜連絡船の歴史と重ね合わせたパレードコースの詳細な説明が（下関市出身の、「刻む会」内岡貞雄共同代表の尽力）。

さあ2時からオープニング。司会は地元下関「ニッコリ会」の鋤野保雄さん。山本紀久代さんが、ギターを弾きながら、澄んだ力強い声での語りかけるような熱唱。「共に生きる街」、と。李相仁（リ・サニン）さんの「代表挨拶」で、『ニッコリ』とは、日本とコリア、国だけでなく、そこに住むすべての人、未来へと手をつなぐ。近隣国を含み、北・南の分断でなく…。「刻む会」の内岡貞雄共同代表、地元議員さんたちの力強い連帯のご挨拶の後、山口朝鮮学園初中級学校の呉栄哲（オ・ヨンチョル）校長先生から、いかに、「ニッコリ」の「かけはし」となる教育が実践されているか、というおはなし。そして、若い姜潤華（カン・ユナ）オモニが、朝鮮学園幼稚部に通う幼子と手をつなぎ語られる姿、去年の「ニッコリパレード」を目にしてどれほど励まされて落涙したか、と深く笑顔での言葉…。そしてそしてパレード出発前の景気づけ？に、今年も来てくださった朴康秀（パク・カンス）一座による農学（サムルノリ）の演奏。公園の広場いっぱいを使っての、「かねやたいこ」の力強い音色に力強い踊り。…これを、「ええなあ！」と思うのか、「異なる他者の脅威」と感じてしまうのか…。

海峡夢広場向かいの出発地点に移動し、三時にスタート。

サウンドトラックを先頭に、今年も babyB さんのリードで、「ニッコリしよう！仲良くしよう！」とみんなで声を出し声を出しながら、手に手に色あざやかなニッコリボードを掲げての、歴史を迎えるパレード。あ、山本紀久代さんは、今度は歌声でなく、しゃぼん玉を飛ばしながら、



歩いています。ニッコリ輝くしゃぼん玉。最後尾では、サムルノリの演奏が響き。沿道で、手をふってくださる方々も。

パレードを終えて公園に戻ったら、店番の井上洋子「刻む会」共同代表（今年もファミリーで、感謝！）のお勧めでコーヒーの何とおいしかったこと。

今年も、こういう抗いが、ニッコリ刻まれました。

お知らせ

【同封物】

- ★長生炭鉱水没事故
74周年犠牲者追悼集会 チラシ
- ★募金パンフレット

【今後の活動予定】

- ★山口朝鮮初中級学校補助金カット抗議の県庁前座り込み行動
2015年12月9日(水)11時40分～ 座り込み
13時～ 座談会
- ★第7回運営委員会 12月10日(木) 10時～16時
- ★第29回長生炭鉱水没事故問題解決協議会 2016年1月7日(木)10時～
- ★長生炭鉱水没事故74周年犠牲者追悼集会 2016年1月30日(土)